

もと ぶ  
**本部町教育委員会**

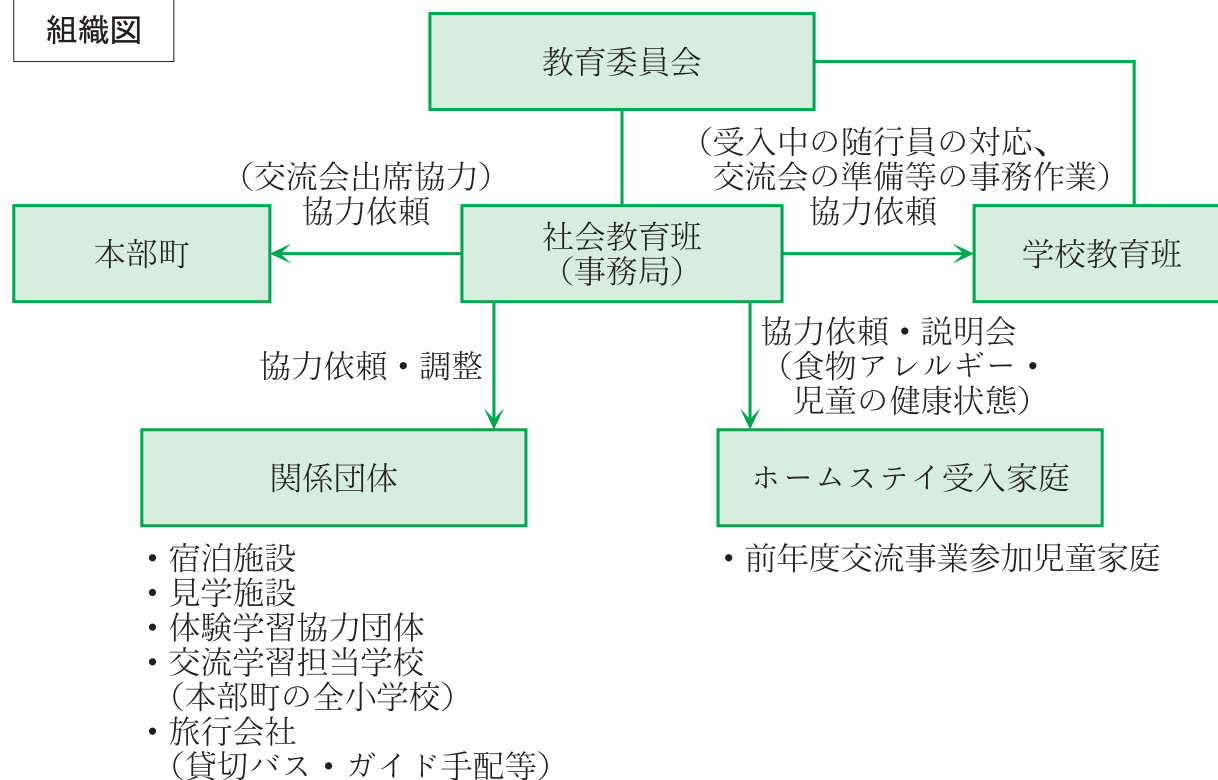
**連絡先**

住 所	沖縄県国頭郡本部町字大浜 8 7 4 - 1
電話番号	0 9 8 0 - 4 7 - 5 2 1 1
FAX 番号	0 9 8 0 - 4 7 - 3 0 8 1

**受入体制**

- 本部町教育委員会内で協議を行い、運営マニュアルを作成。
- 南富良野町教育委員会担当者と日程調整し、安全面（児童の健康状態、体験の安全）等を考慮した計画を作成。
- 関係機関へ協力依頼、日程等の調整を行う。
- 委員会内での役割分担を行い、各担当と調整を行う。
- ホームステイ家庭を対象に体験学習（ホームステイ等）に関する説明会を開催し安全面等の調整を行う。
- 受入当日は本町職員を 3 人以上随行員として同行し、受入体制を整える。

**組織図**



## 受入学校名

北海道南富良野町立幾寅小学校

## 当該小学校の受け入れの経過

### (1) 小学校との最初の接点

- ・昭和62年に開催された海邦国体のカヌー競技において南富良野町が本町に滞在したのをきっかけに本部町と南富良野町との交流事業を展開した。

児童に異なる文化に接する機会を設け、成長を促すことを目的に、平成3年度から幾寅小学校との交流事業を開始した。

### (2) その後の小学校への対応

- ・受入児童（随行員）に対し、受入中に撮影した動画をDVDへ編集して送付している。同様に必要な限り写真も送付している。
- ・受入中に生徒が疑問に思った事等の質問があれば早急に対応できるよう配慮している。
- ・充実した交流が出来るよう、反省点があれば改善し今後の交流事業につなげられるよう取り組んでいる。これまでの反省点としては雨天時の対応の遅れが生じ、その後のスケジュールに影響が出たことがあった。

## 小学校が当地を選定した理由

- ・昭和62年の海邦国体をきっかけに双方の親睦を深めるため、南富良野町として選定した。

## 受入地域への効果

- ・町内小学生と交流を持つことにより、知らない地域の生活状況等を学習でき、児童の健全育成に効果をあげている。
- ・交流学习を通して児童間の親睦が深められ、成人した現在でも連絡を取り合っている人もいる。
- ・本町の宿泊施設、特産品販売施設等を利用することにより経済効果に影響を与え、地域の活性化にも貢献しているかと思われる。

## 受け入れた小学校との関係維持への対応

- ・本町では6月に受入を行い、翌年1月に南富良野町へ児童の派遣を行っている。
- ・お互いの地域の特産品を寄贈し合い、親交を深めている。  
(特産品は、本町からは2月の「アセローラの日」に合わせ、アセローラゼリーを、南富良野町からはジャガイモやメロンを寄贈し合っている。)  
(本事業に関わる事業費は教育委員会で予算化し、本町からの児童派遣には保護者に対し半額補助している。)